

# 紹介

## デジタル学園祭（全国情報教育コンテスト）

京都精華大学教授  
一般社団法人デジタル人材共創連盟代表理事 鹿野 利春



### デジタル学園祭

デジタル関連の大会は「中高生情報学研究コンテスト」, 「U22プログラミングコンテスト」など、たくさんある。しかし、中高生等が授業の延長や、個人またはグループのデジタル活動の成果として気軽に参加できる大会は少ない。そこで、(一社) デジタル人材共創連盟 (以下、デジ連という) は、そのような大会として、今年から「デジタル学園祭(全国情報教育コンテスト)」を開催する。詳細、及び申し込みについては、<https://zenjyocon.jp/>を参照いただきたい。

最初の段階で検討していた「仮想空間でPythonとAIでF1カーを走らせる」は、「VML自動運転レース選手権シーズンβ-最速の自動運転レーシングカーを開発しよう!」として開催することになった。運営はVirtual Motorsport Lab Inc.が行い、デジ連は協力パートナーとして参画する。こちらは、<https://vml-racing.com/>を参照いただきたい。

### 全国情報教育コンテスト

全国情報教育コンテストは、「暮らしや学校をより良くする(DXする)」をテーマにデジタル技術を活用したアイデアやプロダクトを募集している。例えば「情報I」の情報デザインを発展させたプロダクトとして、ダンス動画を編集し特殊効果を加えたデジタルアートの作品や、コンピュータを活用して作成したアニメーション、イラストなどが考えられる。プログラミングを発展させた作品としては簡単なゲームやツールが考えられる。電子工作やIoT関連のプロダクトを作るなども面白いだろう。また、データを活用して発見した問題について、情報技術を使って解決するといったアイデアや実施結果の出品も期待している。総合的な探究の時間や、産業に関する学科、その他の専門学科の課題研究などでは、より具体的かつ面白いものを作ることができるだろう。

生徒が、楽しみながら取り組み、成果物を作っていくということは大切である。そのような過程で知識・技能が整理統合され、社会に参画する意

欲も育っていく。そのためにはアウトプットの機会を準備すること、それを活用することが必要である。「全国情報教育コンテスト」は、そのような形で運用していくことを考えている。

### どうして始めたのか

2021年度に経済産業省が開催した「デジタル関連部活支援の在り方に関する検討会」が「Society 5.0を見据えた中高生等のデジタル関連活動支援のあり方提言」を取りまとめた。デジ連は、この提言を社会実装するために作った社団である。提言の中に「デジタル関連活動を行う中高生等のモチベーションを維持・向上するための目標となる全国大会の開催」が記載されている。本大会は、この提言の内容を実現するものであり、中高生等のデジタル活動の発表の場となることはもちろん、DXハイスクール事業の成果発表の場としても活用されることを期待している。

### 審査の観点とスケジュール

「全国情報教育コンテスト」では、以下のような想像力と創造力を審査する。今回に限り、過去に制作した作品や他のコンテストで受賞している作品も応募可能としている。(ただし年齢などの応募資格を満たすことは必要)

想像力 (アイデア・創意工夫)	創造力 (考えをカタチにする力)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・独創性やアイデアの斬新さ</li> <li>・社会的影響</li> <li>・創意工夫</li> <li>・ユーザ体験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実現力</li> <li>・ユーザビリティ</li> <li>・プレゼンテーション</li> </ul>

表1 審査の観点

最初は書類審査、次に二次審査を遠隔で行なって最終審査参加者を決める。最初の審査は、定められた書式に内容をまとめて電子メールで応募するだけなので気軽に応募できる。内容は、アイデアでもプロダクトでも良い。最終審査会は、渋谷

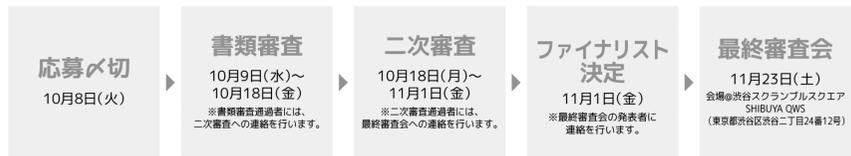


図1 「全国情報教育コンテスト」の応募から最終審査までの流れ

で対面にて行う。最終審査に参加する方には旅費(参加者1名、教員1名分)も準備している。また、入賞者には、企業賞などを授与できるよう準備を進めている。

### 「デジタル学園祭」の今後

「デジタル学園祭」は、高校生のデジタル活動の発表の場として有用なプログラミングやビジネスプランなどの既存の大会とも連携していく。また、高校生が知識や技術を身に付けるための学習コンテンツの提供、企業や大学の方による指導、これらをつなぐバーチャル空間の提供も予定している。中高生等が、コンテストに向けて意欲を持って学び、その成果を発表できる環境の構築が「デジタル学園祭」の目指すところである。

デジ連では、ジェンダー等にも配慮したガイドラインを作成しており、大会開催にあたっては、これを適用する。また、大会での運用を通してガイドラインを改善し、他の大会にも提供する予定をしている。

2025年には、大阪万博が開催される。「デジタル学園祭」は、経済産業省の「大阪・関西万博アクションプラン」にも盛り込まれており、万博期間中にメッセ会場の半分を借り切って3日間の日程で開催する。その際は「全国情報教育コンテスト」の最終審査会だけでなく、他のデジタル関連の大会も含めて、これまでに優秀な成績を収めた方々の発表も予定している。大阪万博以後は、日本を代表するデジタル関連の大会として、中高生等が楽しみながら学び、その成果を発表する場となるよう、地方予選の開催も含めて維持・発展させていく。こういった一連の事柄が、学校教育の改善、中高生等のデジタル活動の振興、デジタル人材の育成につながっていくと考えている。